

道ばたに見る夏・秋の草たち 市街地の生きもの 広瀬重夫

秋の草たち - そのほかの秋の草



これまでのキク科以外にもいくつかの秋の草があります。ほんの少し紹介します。



写真 294、キツネノマゴ
9月、御影町郡家



写真 295、コナスビ
11月、中島通5

■ キツネノマゴ

キツネノマゴ科の1年草です（写真294）。茎は四角、枝や葉は対生につき、花は小さな唇形で太短い穂状になってついています。下の唇には蜜のありかを示す蜜標の紋があります。また、果実には種子をはじき飛ばすしかけがあります。どうして「キツネの孫」なのか分かりません。

■ コナスビ

地面を這うようにして育つサクラソウ科の多年草ですが、花は初夏から秋遅くまで見られます（写真295）。直径6mmほどの黄花は先が5つに浅く裂けていますが、下の方は合わさっていて、合弁花であることが分かります。



写真 2 9 6、クコ
9 月、脇浜町



写真 2 9 7、クコの実
1 1 月、灘南通 6

■クコ

ナス科はふつう草本ですが、このクコは小さな低木です（写真 2 9 6）。海岸によく生えますが、内陸部にもあります。花は夏から秋、筒の先が 5 つに裂け、1.3cm ほどの紫色です。

その実は秋に熟し美しく（写真 2 9 7）、つい口にしたくなりますが、ナス科植物は多少ともアルカロイド（alkaloid）を含み、有毒ですから生食はしない方が良いでしょう。

漢方にはクコ酒というのがあります。



写真 2 9 8、コミカンソウ
9 月、熊内町 5



写真 2 9 9、コミカンソウ
9 月、熊内町 5

■ コミカンソウ

トウダイグサ科の１年草です（写真２９８）。枝に小さい葉が向きあってつき、羽状に見えます。葉はネムノキのように夜は閉じます。

写真２９８は午後４時の状態で、そのあと５時４０分には、写真２９９のように既に閉じていました。この日の日没は１８：０６ですから、かなり「早寝」です。「早起き」かどうかはまだ調べていませんので、皆さんにお願いします。

■ イヌホオズキ

ほとんど年中、花や実のついたのを見ます。こちらはナス科の１年草で、花は白く、先が５つに深く裂け、元の方は筒状に合わさっています。実は球形で黒く熟します（写真３００）。



写真300、イヌホオズキ
11月、灘南通

[このページのPDFファイル](#)



[トップページへもどる](#)